

鳥取縣告示第六百七十號

農業 産業調査指導員タル資源調査員左ノ通ニ免セリ

福田	龜五郎	石田	春光	上小鴨村	同	七月十八日
增田	堯富	中野	敏夫	同	同	同
谷田	禮二	谷野	宗悅	高麗村	同	七月二十四日
松田	福次郎	古川	正助	同	同	同
入江	達雄	上田	登	同	同	同
岩城	政春	杉原	益市	日野村	同	七月十八日
宮木	貞治	清水	義秋	船岡村	同	八月二日
下村	新次郎	中林	善一	丹比村	同	八月一日
牧野	順太郎	村上	正男	瑞穂村	同	同
高石	正一	井谷	龜藏	西郷村	同	七月三十日
諸遊	秋夫	藤井	義勝	灘手村	同	同
益田	誠治	山根	德夫	日吉津村	同	八月一日
西村	雅雄	谷野	常太郎	高麗村	同	同
吉田	定一	坪倉	鷹之	庄内村	同	同
山本	利緒	竹森	忠次郎	山上村	同	七月三十一日
梶田	節義			東郷村	同	八月五日
				倉吉町	同	五月十六日
					同	六月三十日

昭和十六年八月十五日

新任者 鳥取縣知事 八田 三郎

職務執行ノ區域 任免年月日

前田	松藏	五利江	邦三	社村	昭和十六年五月五日
竹内	治武	森本	重太	上私都村	同
小林	英治	岡本	繁美	大郷村	同
山名	壽雄	薄墨	長壽	勝谷村	同
浦嶋	哲夫	小谷	榮茂	西郷村	同
寺地	入一	川田	茂	舍人村	同
伊藤	猪藏	岩垣	芳正	日下村	同
坂田	行雄	中前	源太郎	東郷村	同
竺原	友春	竹中	豐繁	上小鴨村	同
小谷	友春	足立	宗晴	成美村	同
柴田	勝信	阿山	繁知	下山村	同
渡邊	恒造	渡邊	忠造	縣村	同
小塩	久夫	古木	種市	高麗村	同
入江	清章	森田	不二雄	庄内村	同
中原	義知	青木	泰治	日野村	同
田貝	速水	足羽	福義	佐治村	同
竹村	泰英	長谷	正		同

山根 時 茂 1 米 子 市 同 七月一日

01049

◇鳥取縣告示第六百七十一號

價格等統制令第三條第一項ノ規定ニ依リ左ノ通價格ヲ認可シ同條第二項ニ依リ指定地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニシテ組合員ニ非ザル者ニ付テモ本認可價格ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

昭和十六年八月十五日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

一 組合ノ名稱及地區

(イ) 名 稱 鳥取縣釣具商組合

(ロ) 地 區 鳥取縣一圓

二 構成員タル資格

地區内ニ於テ釣具ノ販賣ヲ業ト爲ス者

三 統制令第二條第二項又ハ第三項ニ代ルベキ額及其ノ實施ノ日

(イ) 額

釣竿ノ販賣價格 (岡山縣產)

名 銘 柄 長 サ 最高販賣價格

01050

同	六尺	六尺以上	一
同	七尺	七尺	一
同	八尺	八尺	一
同	九尺	九尺	一
同	九尺	九尺	一
同	十尺	十尺	一
同	十尺	十尺	一
同	十一尺	十一尺	一
同	十一尺	十一尺	一
同	十二尺	十二尺	一
同	十二尺	十二尺	一
同	十三尺	十三尺	一
同	十三尺	十三尺	一
同	十四尺	十四尺	一
同	十四尺	十四尺	一
同	十五尺	十五尺	一
同	十五尺	十五尺	一
同	十六尺	十六尺	一
同	十六尺	十六尺	一
同	十七尺	十七尺	一
同	十七尺	十七尺	一
同	十八尺	十八尺	一
同	十八尺	十八尺	一

(ロ) 實施ノ日 昭和十六年八月十五日

四 認可ニ附シタル條件

(イ) 價格等統制上必要アルトキハ認可ヲ取消スコトアルベシ

(ロ) 認可價格及實施ノ日ヲ組合員ノ營業所ニ揭示スベシ

(ハ) 岡山縣產タル旨明示スベシ

鳥取縣告示第六百七十二號

昭和十二年一月鳥取縣告示第十五號方面ノ名稱及區域並方面委員定數中左ノ通改ム

昭和十六年八月十五日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

- 八頭郡 國英「二」ヲ「五」ニ
- 西伯郡 餘子「四」ヲ「五」ニ
- 同郡 法勝寺「三」ヲ「四」ニ
- 同郡 上長田「二」ヲ「三」ニ
- 日野郡 日光「二」ヲ「三」ニ

鳥取縣告示第六百七十三號

昭和十六年度麥原種左ノ通配付ス

昭和十六年八月十五日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

品 種 名	配 付 數 量
大 麥 瑞 穂 二 號	四、七〇〇
裸 麥 小 鯖 二 號	〇、六〇〇
裸 麥 コビンカタギ一號	一、〇〇〇
小 麥 小麥農林四號	五、〇〇〇

01052

鳥取縣告示第六百七十四號

動力糶摺業免許者中左ノ通廢業届出アリタリ

昭和十六年八月十五日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

免許證番號 住 所 氏 名

二三七 東伯郡安田村大字湯坂 秦 野 長 藏

鳥取縣告示第六百七十五號

當管内ニ於ケル健康保險醫左ノ通指定セリ

昭和十六年八月十五日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

專門科名 診療所所在地 氏 名 指 定 年 月 日

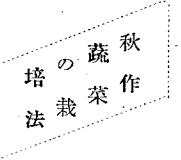
眼 科 鳥取市西町九〇ノ一 小田 規 矩 之 助 昭和十六年八月十一日

01051

彙報

蔬菜を栽培して

國策に順應



(農務課)

食糧増産の要特に緊要なる今日、秋作蔬菜を栽培してその一助とすることはまことに機宜を得たる國策順應の一方法といふべきである。休閒地利用の勵行される時局下の報國運動としても切にこの栽培に努められるやう希望する。左にその栽培法の要領を記して参考に資することとする。

◆結球白菜

結球白菜類は比較的濕氣の多い冷涼な氣候を好み、常に適濕を保つ表土の深い土地に適する。即ち一般に洪積層の膨軟な土質よりも沖積層の緊つた土質に優品を生産する。品種には京都白菜、芝菜白菜、愛知白菜等がある。

播種期

短期間に生育するもので、大体に於て一〇〇日位で收穫出来る而してその前半期が外葉の成長期間で後半期が結球期間である。播種期が遅れると結球せず、又早過ぎると氣温が高くて土地の乾燥が甚しい爲病害虫の發生が多く結果が良くない。即ち晝夜の差が多くなつて夜露を形成する時期に至れば適期に達したものであつて、大体八月・下旬に播種すべきである。又品種により晩生種は早く播種し、早生種(愛知白菜等)は遅くとも結球する。

整地・畦作り

前述の如く短期間に生成するから、畑を肥沃にして置くことが必要である。その意味に於て前作に茄子・胡瓜又は萵類を栽培した場所を利用すれば成績が良い。

整地は早目に行ひ、堆肥又は人糞尿を散布して鋤き込み、一度降雨を待つて播種する。畦立は高畦にし、豪雨の際根元が雨水のために空氣の缺乏に遭はぬやうすることが必要である。

白菜は幼時の生育状態が全成長を支配する事が甚しいから、高畦にするが、乾燥を防ぐ爲に種子の眞下に元肥を置かず、少し片寄せておくがよい。畦の高さは土質の排水状態により差があるが大

体二マ位、畦幅は一尺五寸以上にする。

下種

畦の上を平に整地し、所定の株間の處を沈壓してこの凹所に極めて薄い人糞尿を多量に注ぐ。そして一ヶ所に十粒内外蒔いて覆土し、更に防乾及び強雨を避ける爲切藁・麥稈を覆ふ。大体に於て三日位で發芽するから覆物を叮嚀に除いて子葉の生育を助け

間引

間引を終る毎に株間に施肥して中耕土寄せをし、風の爲に動搖を防ぎ、最後の間引の際は残すべき株の葉をすばめて稍々高く土寄せを行ふのであるが、發芽後十二、三日を経て一ヶ所六・七本、本葉六・七葉の時三本、本葉七・八葉の時一本にする。間引の時注意すべき點は、葉の發育特に旺盛なもの、葉が纏せてゐるもの、葉柄の長いもの、葉の表裏特に裏面に毛茸の少ないものを除くやうにすることである。

施肥

葉菜類中最も多量の肥料を要し、殊に速効性のものを潤澤に施す必要がある。施用量が少いと生長が不充分で結球しても小球で

ある。

三要素中最も多量を要するものは窒素で加里之に次ぎ、磷酸は比較的少量でもよい。兎に角白菜は生育初期の發育を旺盛にして生育期間中肥切れをさせぬやう、殊に結球期に至り肥料が缺乏すると收量が少くなるから注意を要する。

施肥の一例(反當)を示すと左の通りである。

肥料名	施用量	原肥	一回	二回	三回
堆肥	三〇〇貫	三〇〇貫	一貫	一貫	一貫
草木灰	三〇	三〇	一貫	一貫	一貫
石灰	三〇	三〇	一貫	一貫	一貫
過石	一〇	五	五	一貫	一貫
人糞尿	六〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇

原肥の中堆肥・草木灰・石灰は整地前耕起に際し施用して全面に鋤込み、過石は播種の時施用し、人糞尿は肌肥とする。追肥は莖葉の生育最盛期迄に大部分施すやうにする。

病害蟲防除

根腐病 排水をよくし、耕土の深い土地を選ぶ。十字花科植物との連作は避ける。
 黒斑、白斑、白銹病 陰濕な氣象状態の時發生し易い。水一斗

01055

に對シクポイド十二匁液を撒布する。
芽蟲、キスデノミムシ、サルハムシ、ハイマダラメイガ 發芽後直に煙草石灰合劑(驅蟲用煙草一〇〇匁石灰一〇〇匁)或は除虫菊木灰合劑(除虫菊二〇〇匁草木灰二一四斗)を撒布する。

◆大根

土質 耕土深く輕鬆な土壌で排水可良な所が良い。重粘な土壌は色澤不良で、往々岐根さへ生ずる。これに反し砂土は外觀は優美であるが充實せず、辛味が強い。

整地

根身の長さに應じて深耕し、短時日の内に伸長を計ると同時に深耕に注意すべきである。此の作業は播種一週間前には終らないと、土質により乾燥のため生育を害し、時には分根を生じ外觀を悪くする。排水が良く表土の深い畑は平畦でよく、これに反し地下水位の高い處は高畦にする。

播種

冷して比較的多濕の氣候を好み、暑熱を嫌むから早過ぎれば品質が悪く蟲害が多い。しかし晚いと發育が不良になつて收量が少い。品種による播種期を示すと大体左の通りである。

ば品質が悪く蟲害が多い。しかし晚いと發育が不良になつて收量が少い。品種による播種期を示すと大体左の通りである。

聖護院大根 八月十五日—二十五日
美濃早生大根 八月一日—十五日
霜被大根 九月十日—二十日
澤庵用大根は畦巾を狭くして一條蒔とするがよい。距離は品種によつて異なるけれども株間一尺位、但し食用のものは肥大せしめる必要がある爲畦巾三尺一條蒔き、株間一尺乃至一尺五寸の距離とする。播種にあつては所定の距離の處を低くし、一ヶ所十粒内外疎播して鍬で壓へ、覆土し麥稈を覆つて乾燥を防ぐ。
播種は畦立後直に播種することなく、二回位雨に逢はせて土壌が鎮定してから蒔付ける方がよい。

肥料

人糞尿・米糠・草木灰を主体とし、三要素の割合は窒素加里・燐酸の順序である。施肥の一例を示せば次の通りである。

肥料名	反當施用量	元肥		
		一回	二回	三回
堆肥	二〇〇貫	一貫	一貫	一貫
下肥	四五〇	一五〇	一〇〇	一〇〇
米	二〇	一〇	一	一

01056

草刈 元肥は整地の際側方又は下方に施し、種子に直接當らぬやうに注意する。追肥は第一回を第二回間引後、第二回を最後の間引後第三回を本葉二十枚前後の時施し、始めは株間に、後には畦の側方に施して土寄せをする。

其他の手入

播種後は晴天の時は朝夕二回灌水する。四日を経て發芽を始めるから麥稈等を除去し、其の後四日乃至五日を経て本葉發生を始めた時第一回の間引をする。即ち子葉の畸形のもの、莖の着色してゐるもの、密生した部分を除き、手で根際に土を寄せかけて倒伏を防ぐ。第二回は本葉四枚の時、第三回目は八枚乃至十枚位の時行ふ。

病蟲害防除

腐敗病 整地の時石灰を施し、土壌と良く混和する。
白澁病 發病の初期、石灰四〇匁六斗式ボルドー液を撒布する
蚜蟲 煙草粉を葉裏に撒布するか、除虫菊石鹼液を撒布する
心喰蟲 早蒔を避け、本葉の發生した頃から砒酸鉛液(水一斗に一五—二〇匁、カゼイン石灰一〇匁)を三—四日毎に撒布する。

サレハムシ、キスデノミムシ
除虫菊木灰合劑、煙草石灰合劑を撒布する。

○行旅死亡人

- 一本籍住所氏名不詳 男一人
- 一年齡 三十歳前後人相不明
- 一着衣 黒絹大ジャンパー黒ズック靴ヲ穿ツ
- 一所持品 網刺財布一個在中金三十一錢外ニきのさき温泉西村屋ト染抜キタル日本手拭一本及カンテラ「カバイト」等
- 右ハ昭和十六年五月三十一日甲子村第三地割字大松山林内ニテ倒死致居ニツキ假埋葬ス
- 一取扱者 岩手縣上閉伊郡甲子村長
- 心當ノ向ハ直接該村長宛照會相成度

○行旅死亡人

- 一本籍、住所、氏名不詳推定年齢四十六歳位
- 一男女別 女子
- 一人相、着衣、丈、四尺七寸位顔丸ク鼻低ク瘦セ形左目風眼ノ如クカスミ上左門齒銀冠一枚アリ 着衣白地單衣ヲ繼ギ合

01057

- セタル短衣一枚一見精神病者風態ナリ
- 一 死亡別年月日 溺死 昭和十六年七月二日
 - 一 死亡發見場所 横手町陸成字碓碓稿下旭川西岸ニ漂着
 - 一 取 扱 者 秋田縣平鹿郡横手町長
 - 一 心當ノ向ハ直接該町長宛照會相成度

正 誤

昭和十六年八月五日付鳥取縣公報登載鳥取縣告示第六百三十九號
醫藥品ノ販賣價格中左ノ通正誤ス

頁	段及行	誤	正
一一	四行目三段	二五〇同	二五〇同
一二	七行目三段	二五〇同	二五〇同

文部省紹介レコード

(社會教育課)

△ 護れ太平洋	武富邦茂作詩 瀬戸口藤吉作曲 柴田陸 四家文子演奏 片面	A 四二〇〇
△ 伊 達 政 宗	三枝彦雄作曲 許屋榮藏作曲 芳村伊十郎演奏 芳村伊十郎演奏 四枚	キ 〇〇一 五〇〇 四
△ 祝典箏協奏曲	宮城道雄演奏 服部正編曲 二枚	ビ クダ 九九五二一
△ さうだその意氣	西條八十作曲 古賀政男作曲 霧島昇他二名演奏 片面	コ ロン 一〇〇二八五
△ 南進日本の歌	時雨音羽作詞 江崎小秋作曲 佐藤長助作曲 編曲 永田絃次郎 横田郁子演奏 一枚	キ 五七〇三四
△ 多 摩 川	永井素岳作詞 許屋勤五郎作曲 芳村伊四郎演奏 三枚	キ 五二二〇〇 〇〇〇 三二一
△ 若き日の合唱	江崎小秋作詞 上原げんと作曲 編曲 井口小夜子演奏 片面	キ 五七 ハン 四二

昭和十六年八月十五日印刷
昭和十六年八月十五日發行

發行所 鳥取縣鳥取市東町
鳥取縣高郡大正村大字古海
鳥取刑務支所